

チャレンジの機会を学生に提供する学部

中央大学商学部教授
学部長

渡辺 岳夫



商学部は5年ほど前から、キャリア科目を充実させることに注力しています。学生のキャリア形成支援を重視し、組織と個人との関わりに重きを置いて、自立した社会人・職業人となるために必要な素養を涵養することが狙いです。とりわけ企業を取り巻く競争環境が厳しさを増し、かつ変化の度合いを速めていることを踏まえると、自ら考える力を持ち、あらゆる困難や環境に直面しても、それを乗り越えられる実践力のある人財の育成が、実学の商学部には強く求められていると考えているからです。

キャリア科目のうち2014年度に新設された「ビジネス・プロジェクト講座」では、まずは学生が取り組むべき課題を実務家にご提示いただくことからスタートします。そして、その課題に対するソリューションを学生たち自身が考案し、実務家に対してプレゼンすることになります。ソリューションの考案プロセスを通じて、あるいはプレゼンに対する実務家のフィードバックを通じて、学生たちは、企業における実際の仕事の内容や意義を学習することになります。このことは、学生たちのキャリア意識を高め、自律的なキャリア発達を促すうえで、非常に有用です。これまでご協力

いただいた企業としては、キッコーマン(株)、サントリーホールディングス(株)、アステラス製薬(株)、(株)オリエンタルランド、日本航空(株)、(株)セブン&アイ・ホールディングス等々が挙げられます。企業ではありませんが、宇宙航空研究開発機構(JAXA)にもご出講いただいたことがあります。しかし、ビジネス・プロジェクト講座は、企業が現実に直面している課題に取り組むとはいえ、考案したソリューションを、企業の現場に実際に自ら適用することまでは想定していません。そこで、2015年度に新設された「ビジネス・チャレンジ講座」では、学生たち自身が、自ら考案したソリューションを、実際に企業の現場に適用するところまでを、その内容に含むこととしました。同講座では、2018年度からはJFL所属の武蔵野シティFCというサッカークラブの経営に商学部生が実際にチャレンジします。具体的には、夏季休業期間中に開催される試合興行に関する業務全般を担うこととなります。学生たちは、座学でサッカークラブ経営の基本を学んだうえで、試合興行を成功させるために必要かつ効果的な広報、企画、およびスポンサー営業の方法を考案し、実際にそれを適用するところまでチャレンジします。これ

までの3年間の講座の学生たちは、主要メディアに何度も取り上げられるぐらい、記録的な集客を実現してきました。しかし、その陰には無数の失敗がありました。チャレンジに失敗はつきものですが、単に失敗を失敗で終わらせるのではなく、その失敗に関する情報を次の取組みに活かすことを学生たちは学びました。この講座を通じて、学生たちは「失敗を恐れること」を恐れることを知ったのです。

さて、このビジネス・チャレンジ講座の対象を、スポーツクラブ経営から順次拡大していくことを考えております。会計実務に学生が主体的にチャ

レンジする講座というのはいかがでしょうか？例えば、企業の経営企画の実際の場面において、学生が身につけた管理会計のスキルを駆使して、実際に企画を考案し、経営陣の前でプレゼンする。その企画がたとえ採用されなくても、その経験は学生にとって「会計」を見つめ直す、とても貴重なものとなることでしょう。白門会の皆様のご協力をお願いできれば、これほど心強いことはございません。学生にチャレンジの場を、失敗できる場を、ご提供くださいますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

会長に就任して

7月に公認会計士白門会の会長に就任して早や半年が過ぎました。

思い起こせば、公認会計士白門会は平成4年10月24日に設立され、25年が経ちました。

当時、公認会計士、税理士の集いで会計人会がありました。公認会計士だけの組織を作ろうという動きがあり、私も藤沼先輩に召集され、増田先生、木下先生の下で設立の為の検討会に参加しました。最初の検討テーマは、既に会計人会のメンバーであった井上達雄先生の了解がいただけるかどうかという点でした。しかし、思いの外簡単に井上先生から「良い事だからぜひやりなさい。」というお言葉をいただき、その後は事務的に規約の作成、会費の決定、役員の内定等があり、スムーズに設立総会へと進んでいきました。

設立時の会長は川北先生にお願いして、その後11名の先輩方に会長を務めていただきました。

公認会計士白門会
会長
熊坂博幸



設立以降はそれなりの人数が総会、新年会等に参加していましたが、近年は高齢化と共に参加者が減少し、若い人の入会も少なく、総会等への参加者は特定の常連者に限られるようになってきました。

ここ何代かの会長は、多くの若手会計士に入会してもらおうべく、年次別幹事制の導入等、様々な努力を試みてこられました。なかなか効果が得られていないというのが実情です。

私に課された課題のひとつも、若手会計士の入会促進だと認識して、会長就任以来、ずっと考えていますが、未だ妙案は思いつきません。ぜひとも皆様のお力を得て、実現したいと思っておりますので、良い方法等思いつきましたら、ぜひ教えていただきたいと思っております。

もうひとつの課題として、公認会計士試験合格者の増加に寄与するということがあります。私

が中央大学に入学した当時は、司法試験、公認会計士二次試験共に合格者数トップを続けている状況でした。しかし、昭和49年のトップを最後に、慶応大学が43年トップを継続しており、中央大学は早稲田大学に続き3位というのが定着しています。現在、大学においても chuo vision2025 を策定しており、2020年までに合格者数2位、2025年までにトップになることを目標に掲げています。公認会計士白門会としては、大学、後輩に対する貢献として、現在、出前講座を年間15回提供しています。直接的に受験勉強に効果はないと思いますが、受験生の増加には寄与できると

思いますので、これも継続して取り組んできたいと思っています。

3つ目の課題は、会員に対して参加したくなる魅力をどう打ち出すのかという点であり、当面は懇親会以外にCPEにもプラスになる研修会の開催が重要と考えています。魅力あるテーマをどう設定するのか充分検討したいと思っています。これについてもご意見等ありましたらぜひお寄せください。

任期いっぱい頑張りますので、ぜひよろしくお願ひ致します。

会員章について

私は現在、監査法人に籍を置いています。日本公認会計士協会（JICPA）の副会長を兼務しています。主たる業務はむしろ副会長の方なので、今回は公認会計士の会員章について皆さまにお伝えしたいと思います。

皆さん公認会計士の会員章をご存知ですか？現在の会員章はこれです。



2008年以前に公認会計士登録された方はこちらを持っていると思います。



公認会計士白門会
副会長
山田 治彦



また、旧試験制度で会計士補になった時にはこれが送られてきたはずです。



会計士補のバッジに刻印されているJAは Junior Accountant の略なのですが、JA と言えば圧倒的に農協を思い浮かべますので、この影響でしょうか、このバッジをつけている方を今まで見たことがありません。

この会員章（バッジ）に関してはJICPAの会員章細則に定めがあり、第2条に「会員は、会員章は会員の身分を象徴するものとして認識し、業務を行うときは常にこれを着用しなければならない」とされています。着用が義務とされているのですが、着用している方はJICPAの役員以外はあまり見かけません。

現在の会員章は2008年に公認会計士制度60周年を記念して作ったものです。この際の議論においても「誰も着用しないものをお金をかけて作るは無駄ではないか」という意見が強くありました。しかしながら、(旧)会員章(真ん中のもの)のデザインが地味ですこぶる評判が悪く、60周年記念というような大イベント時でないでデザインを変えようという話にならないのではないかと、ということでデザインを変更することになりました。

ちなみにこの当時NHKがドラマ「監査法人」を放映することになりました。NHKにお願いし、ドラマで公認会計士役の俳優には全員会員章(旧会員章)を付けてもらったのですが、ドラマを見た多くの会員のうち誰一人として気づく人はいませんでした。

この時のバッジは裏に会員番号が記載された本物を厳重な管理の下で着用してもらいました。したがって2009年以後のどなたかの会員章は松下奈緒さんや橋爪功さんが着用していたものです。

新しい会員章は、三菱UFJ銀行のロゴマークや資生堂のサマーキャンペーンを幅広く手掛けたデザイナーの松永真氏によるものです。

全体の楕円はグローバルを意味し、正方形のつながり公認会計士の連帯を示す・・・といった「意

味するもの」はあるのですが、松永氏によれば、まずはデザインを重視したとのことでした。遠くからでも判別できるデザインになったのですが、そうすると「重みがない」「バッジを見ても何の資格かわからない」(当然ですが)、といった意見も多数ありました。

法人の中で会員章を着用している人はほとんど見かけません。(旧)会員章の時だけでなく、新しい会員章になっても同様です。JICPAとしても着用促進に向けて積極的に施策を行っているわけでもありません。しかしながら、地方に行きますと独立開業している方で会員章を着用している会員がそれなりにいます。お話を伺うと、「独立開業し頼れるのは自分一人という状況の中で、クライアントから無理難題を言われることも多く、時に自分の心が折れそうになることもある。そのような中で毎朝仕事に向かう際に会員章を付けることにより自分の心を鼓舞している」ということでした。ありがたい話です。いろいろと文句を言われましたが、会員章を作ってよかったと思いました。

なお、(旧)会員章も引き続き有効ですが、申請すれば新しい会員章を無料で入手できます。

詳しくはJICPA 総務本部 会員登録グループへ。

◆公認会計士白門会役員◆

会 長	熊坂 博幸	幹 事	神野 敬司	相 談 役	増田 浩二
副 会 長	山田 治彦	幹 事	品川 越茂	相 談 役	木下 徳明
副 会 長	柴 毅	幹 事	白髭 英一	相 談 役	金井 一夫
副 会 長	北方 宏樹	幹 事	梶山 嘉洋	相 談 役	福田 眞也
幹 事 長	岸田 靖	幹 事	畠中 隆徳	相 談 役	三和 彦幸
副 幹 事 長	郡司 昌恭	幹 事	降旗 京二	相 談 役	宮内 忍
副 幹 事 長	中原 國尋	幹 事	町田 和宏	相 談 役	遠藤 忠宏
副 幹 事 長	三宅 博人	幹 事	森山 謙一	相 談 役	伊藤 大義
副 幹 事 長	吉井 敏昭	幹 事	若山巖太郎	相 談 役	黒田 克司
幹 事	青木 幹雄	会 計 監 事	成田 智弘	顧 問	中根堅次郎
幹 事	家富 義則	会 計 監 事	河合 明弘	顧 問	後藤 徳彌
幹 事	石野 研司	相 談 役	川北 博	顧 問	柏寄 周弘
幹 事	加藤 暁光	相 談 役	山本 秀夫		

日本公認会計士協会研究大会（金沢大会）

公認会計士白門会
会計幹事

成田 智弘



平成 29 年 9 月 28 日（木）に、日本公認会計士協会の研究大会が開催されました。場所は、古都金沢ということもあり、日本全国から多くの方が参加されました。

テーマは、「地方創生 - 公認会計士の挑戦」で、データ監査、事業承継、職業倫理、農産物による地方創生、社会福祉法人の監査、産学連携、地方公共団体の会計など多方面に渡る有意義な研究発表が行われ、公認会計士の業務の幅広さを改めて認識する貴重な機会となりました。

恒例の記念講演は、あの「加賀屋」のおもてなしの心を受け継いでいる株式会社加賀屋相談役の小田禎彦様による「おもてなしの心で世界を狙え」と題するもので、日本のおもてなしの心は世界に通用するものであると感じました。会計・監査の世界は欧米化が進み、日本の監査法人の多くも外資系と呼んでもおかしくない状況になっており、それは世界で戦うために必要なことではあるものの、おもてなしの心は失わないようにしないと日本の良いところが失われてしまうような気がしました。

研究大会の後は、記念パーティーが開催され、芸子さんによる踊りと三味線をはじめ、興味深い出しものも行われ、活気のあるパーティーでした。

この記念パーティーの後、会場近くの居酒屋で恒例の公認会計士白門会の懇親会が行われ、30 名近くの方が参加されました。美味しい北陸のお酒と魚で話も弾み、楽しい時間はあっという間で

した。会場は岸田幹事長が地元の友人にお願いして厳選した良いお店で、評判も上々でした。残念ながら、開催のご案内が上手く行かず、翌日に数名の方から懇親会があったのであれば参加したかったとの声もいただきました。

翌日はエクスカッションもあり、兼六園などの金沢市内観光、立山トロッコ列車と温泉の旅、研究大会の記念講演も行った小田禎彦様が相談役を務める加賀屋宿泊の和倉温泉の旅などに多くの方が参加されました。

ちなみに筆者の成田はトロッコ列車の旅に参加しましたが、世話役として参加していた富山会所属の一人が公認会計士試験の受験仲間で二十数年ぶりに再会することができました。昔の仲間と会うことができたり、忌憚なく話せるのは研究大会の良いところだと思います。また、宿泊した温泉ホテル延樂のおかみさんは、お世話になっている小西彦衛先生の奥様の幼いころからの親友という縁もありました。再会あり、出会いあり、仲間、先輩後輩、お世話になっている方との懇親、有意義な研修、そして観光ととても意義深い研究大会に、あなたも参加してみませんか？公認会計士白門会は、研究大会の後に懇親会を必ず開催しています。このような同窓による懇親会を継続しているのは当公認会計士白門会だけです。

平成 30 年は徳島での開催となります。みなさん、徳島でお会いしましょう。



十月会・白門ゴルフ大会

公認会計士白門会
副会長
柴 毅



ゴルフ担当幹事の柴です。

＜CPA ゴルフ十月会＞

昨年10月9日に、茨城ゴルフクラブにて、第30回CPA ゴルフ十月会が開催されました。昨年と同じ名門コースでの開催ということで、参加数は昨年並みの94名となりました。

当大学からは、宮内忍氏、柏崎周弘氏、佐藤俊一氏、山田治彦氏、霧生卓氏、長津健太郎氏、富樫正浩氏、柴の8名で参加しました。

結果ですが、今年度は、佐藤氏、霧生氏、長津氏、

そして北海道からの参加の富樫氏の活躍により、グロスで早稲田に次いで2位となりました。一方、ネットについては、運に恵まれず4位となりました。例年課題としてきた、早稲田とのグロスの差ですが、先の4名の方々の活躍により、4名で20打(前年35打)とかなり縮まってきておりますが、まだまだ、といった感じです。ゴルフのお好きな会員の皆様には、是非積極的な参加をお願いします。

＜白門ゴルフ大会＞

昨年11月13日に、桜ヶ丘カントリークラブにて、第28回白門ゴルフ大会が開催されました。参加者は前年より若干減少し、27チーム108名となっております。年々、減少傾向にあるのは気がかりですが、若い人の積極的な参加が望まれるところです。

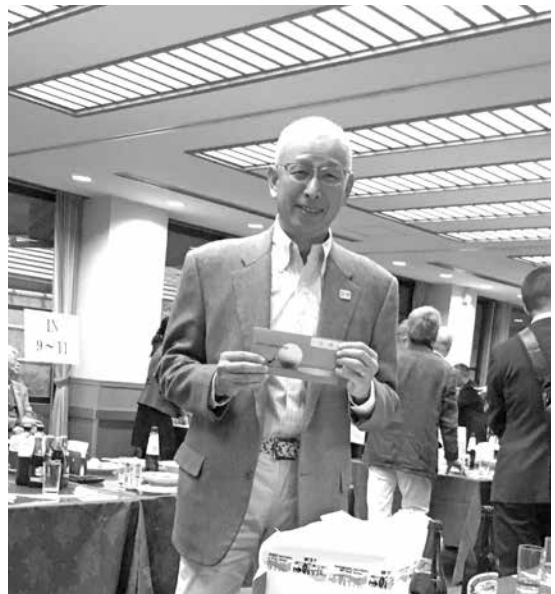
当会からは、宮内忍氏、森谷伊三男氏、福田眞也氏、柏崎周弘氏、霧生卓氏、柴の6名で参加しました。結果ですが、個人の部においては、霧生氏がグロス90台、ネット72.4といったスコアで3位に入賞しました。また、他会での参加となった佐藤俊一氏も13位と健闘されました。私は久々の80台でしたが、運に恵まれず23位でした。

一方、団体の部ですが、成績は1チーム4名中の上位3名のネット合計で決まります。6名参加ということで2チームに分かれ、それぞれに1名他の会の方が加わりました。結果ですが、残念ながら6位、14位となっております。

平日でもあることから当会からの参加者が年々減少していることを心配しております。こちらに

ついても中大OB・OGとの親睦を深め、様々な分野で活躍されている方々と懇意になれる絶好の機会ですので、是非積極的な参加をお願いします。

(写真は個人3位の霧生氏です。)



新春講演会及び賀詞交歓会

公認会計士白門会
幹事
梶山嘉洋



さる平成30年1月19日（金）に中央大学駿河台記念館におきまして、新春講演会及び賀詞交歓会が開催されました。

新春講演会は、伊藤大義先生に「不正会計について」として、最近の不正会計の事例、不正が顕在化するきっかけ、第三者委員会の概況、不正会計の原因や動機、不正会計のデメリット、不正会計への対応策（改善策・防止策）と言った不正会計に焦点を当てた様々な観点から御講義を頂きました。

大手企業の会計問題などで大きく報道されることもある、粉飾決算をはじめとした不適切な会計処理。始まりは小さなミスやきっかけであっても、企業にとって取り返しがつかないほど大きな問題に発展してしまうケースもあります。

大手企業の第三者委員会の委員長、委員を数多く務めた伊藤大義先生の実務に基づく講演は大変興味深く、近年の不正が顕在化するきっかけとしては内部通報窓口の設置による在籍社員を含む内部通報が多いこと、経営者が調査の過程で自白することは稀であること、不正会計の防止策や改善策を講じても不正会計自体はなくなるであろうといった話が印象的でした。また、第三者委員会のスケジュール、業務内容やデジタル・フォレ

ンジックなど今後の業務や研鑽にも必要となる事項を勉強させて頂きました。

研修会終了後、賀詞交歓会が開催されました。熊坂会長の皆が興味ある内容の講演会開催などを通じて、会員の増加や会員の参加率の向上を図っていきたいとの挨拶に始まり、黒田前会長の乾杯の挨拶を皮切りににぎやかな会となりました。

諸先輩方のお話などをお伺いしていても、思い出話に留まらない業務の貴重な体験談や培ってこられた仕事観など、大変刺激になるお話ばかりでした。また、諸先輩方同士におかれましても、旧交を温められるよい機会とされておりました。

賀詞交歓会の最後の挨拶では、木下先生が今年傘寿を迎えられるとのことで、大変おめでたいこととございました。また、今後も皆で公認会計士白門会を盛り上げていきたいなどのお話があったあと、福田元会長の潔い一本締めでお開き、散会となりました。

新春講演会、賀詞交歓会を通じて、多くの方々とふれあい、今年一年に向けて気持ちを新たにすよい機会となりました。来年も、和気あいあいとした雰囲気的大事にしながらも充実した会とすることで、これまで以上に多くの、また、新しい方々にもご参加を頂ければと思います。

合格体験記

商学部会計学科5年
(合格時)

阿部 汐里



この度私は平成29年度公認会計士試験に合格することができました。

まず始めにお世話になった経理研究所関係者の皆様、家族にこの場をお借りして御礼申し上げます。

私が会計士になりたいと思ったのは中学生の時でした。小学生の時からそろばんを習い、数字が好きだったのでそれを生かせる職業として公認会計士について調べたのがきっかけでした。

そして中央大学の附属高校に入学し、附属高校簿記講座で簿記を学び始めました。簿記講座は学校のない土曜日と日曜日にあり、そこでは実際に会計士として働いている先輩方にお会いする機会がありました。そこで会計士のお仕事について教えてもらい、会計士になりたいと強く思うことができました。

その後、中央大学へ進学し経理研究所で公認会計士の勉強を始めました。私は実家から多摩キャンパスに通っていたので通学に時間がかかり、受験勉強開始時は質の高い勉強時間を確保することができず苦労しました。そこで勉強する環境を変えて集中力を保つ工夫や、自分に合った勉強方法を確立させるなどの工夫を行い、時間をかけなが

ら日々の勉強を改善していきました。

私は日商簿記1級に合格するのも短答式試験、論文式試験に合格するのも、とても時間がかかりました。早期合格者が多い経理研究所の中で周りの友達が合格していく中、自分は合格することが出来ず精神的に辛かった時期もありました。そんな時にいつも私を支えてくれたのが専任講師の先生、そして家族の存在です。専任講師の先生には毎週面談をしてもらい、一緒に学習のスケジュールを立て、勉強方法を教えてもらいました。また模試の結果が悪い時や勉強が捗らない時に励ましてくださいました。そして、両親は就職活動が始まる時期になっても会計士の勉強を続けたいという私を何も言わず見守ってくれ、母は受験勉強期間中毎日お弁当を作ってくれ体調面でも支えてくれました。今振り返ってみるとたくさんの人に支えられてこの合格まで辿り着いたと強く感じます。

就職後は、これまでの受験生活で学んだ事を生かしこの合格がゴールではなくスタートとなるよう、新たな目標も立てて頑張りたいです。そして、今まで支えてくださった方たちに恩返しをしたいと思います。

合格体験記

商学部会計学科4年
(合格時)

織田 希



私は高校生の際に、将来の自分のキャリアについて、何か専門的な職業に就きたいと考えると同時に、その専門的な何かを大学生活の中で身に付けられないかどうか考えていました。そして、調べを進めていくうちに簿記会計という分野に興味を持ち、大学4年間のうちに公認会計士試験に合格することを目標に中央大学に進学することを決めました。

私は、大学4年間の最終目標に公認会計士試験の合格を掲げていたものの、勉強を始めてから大学2年生の後半まで、その勉強量の多さや問題の難しさから自分が合格する姿はまるで想像できませんでした。実際、私の受験生活は決して楽な道のりではなかったと思います。

まず、私は簿記1級を取得した大学2年生の11月まではアルバイトをしながら経理研究所に通っていたため体力的にとってもつらい日々が続きました。しかし、毎日の朝答練はもちろん、大学に通っている以上授業には出席すべきだと私は考えていたので、それらには必ず出席するようにしていました。

その後、私はアルバイトを辞め、ようやく勉強一本に集中できる環境が整い、模擬試験でもある程度の点数が取れるようになったこともあり、3年生で合格も夢ではないと思っていました。とこ

ろが、3年生の5月に受けた短答式試験に落ちてしまい、その夢はあっけなく消え、同時に自信も失ってしまいました。私の人生で一番の努力をしたつもりだったので、もう無理だと考え、本気で辞めるか悩みました。しかし、私が落ちた試験に合格している人たちがいるという事実と今までの自分の努力を何としても合格に結び付けたいという強い思いが私を立ち直らせてくれました。それからは、ただ問題をこなすだけの勉強を改め、取引の本質や結論の背景を常に考えながら理解を深める勉強を心掛けるようにしました。その結果、知識が定着するようになり、模擬試験で安定した成績を残すことができるようになり、本試験も落ちて望むことができました。

私は、合格に必要なことは、目の前の課題に一つ一つ真剣に取り組むことだと考えます。例えば、一見試験とは関係ないような大学の授業であっても、その授業を受けていたおかげで試験問題を解くことができたり、知識の理解が深まったりすることが度々ありました。私が授業に毎回出席していた理由の一つがここにあります。このように、目の前の課題に手を抜かずに取り組んでいくことが将来の自分を助けることにつながると思うので、自分を信じて目の前の課題を一つ一つ乗り越えていってください。

合格体験記

商学部会計学科2年
(合格時)

伴野満希



私は出身が商業高校で、部活動は簿記部に所属し、そのころから簿記の勉強をしていました。そして、さらに会計についての多くのことを学びたいと思ったので、中央大学に入学しました。

入学してすぐに、経理研究所での勉強が始まりましたが、私は高校の部活動引退後、大学に備えての簿記の勉強をほとんどしていなかったので、周りの商業高校出身の人たちに比べて成績が全く伸びませんでした。なんとなくうまくいこうという甘い気持ちか私を現実に突き落としました。そのときから、この悔しさをバネに1から真剣に勉強して、絶対に大学2年生の8月で論文式試験に合格しようと思いました。

しかし思っていた以上に今までの自分の知識は曖昧でした。1年生の12月に短答式試験を受けるのに、その勉強の穴を埋めるために多くの時間を使ってしまい、なかなか新しい勉強に進むことができませんでした。結果的に、試験直前になっても試験範囲が終わらず、もう無理だと思うときもありました。それでも専任講師の方々や家族からの応援があったので最後まで諦めず、なんとか突破することができました。

短答式試験が終わると論文式試験の勉強を始めますが、試験範囲もまた増えるのでさらに多くの

勉強時間が必要となります。集中力が切れてしまい、勉強から逃げ出したくなるときもありましたが、そのようなときには一緒に勉強している仲間が存在が私の支えとなりました。

このように私は受験時代に多くの人に支えてもらいました。勉強中は自分ひとりの個人戦のように感じてしまう時もありましたが、絶対に一人で乗り越えることのできるものではなく、誰かの支えが必ず必要となります。どんなときでも私を励まし、応援してくれた家族、受験勉強に疲れた時、話を聞いてくれた大学の友達、自分が方向性を失ったときは正しい方向へと導いてくださった専任講師の方々や学生スタッフの方々、私たちが勉強をしやすくするために経理研究所を運営してくださった事務員の方々、そして、よきライバルであり、また、よき相談相手でもあった、一緒に勉強していた友達や先輩方。支えてくれた方々には感謝しかありません。これから少しずつ恩返しをしていきたいと思っています。

「公認会計士試験合格」は自分の公認会計士人生のスタートラインに立っただけであって、ゴールではありません。まずは残された大学生活の中でさらに多くの事を学び、そして、将来は幅広い分野で活躍できる公認会計士になりたいです。

2017年度中央大学公認会計士試験合格者祝賀会

公認会計士白門会
幹事
森山謙一



2017年12月13日（水）に東京ガーデンパレスにおきまして、2017年度中央大学公認会計士試験合格祝賀会が開催されました。

2017年度の公認会計士試験の合格発表は11月17日にされており、志願者数11,032人に対して合格者数は1,231人（対前年比123人増）、合格率は11.2%（対前年比0.4ポイント増）となりました。そのうち中央大学出身者（在學生、卒業生を合わせて）の合格者数は合格祝賀会開催日時点で約60名となりました。2016年度においては合格者数を大きく伸ばしておりましたが、その反動もあってか本年度においては相対的に厳しい結果となったと言えると思います。

祝賀会は、中央大学総長・学長の酒井正三郎氏のご挨拶により始まりました。そのお話の中で、ビジネスの流れや世界情勢に常にアンテナを張っていることで、国際感覚豊かな、そして世界に貢献できる公認会計士になって欲しいとのお言葉があり、近年影響力を増している中国経済を御専門とされている先生ならではの御言葉が特に印象に残りました。その後の中央大学常任理事の間島進吾氏からのご挨拶では、昨今の監査法人離れの現状を踏まえ、すぐに転職等をするのではなく根気強く仕事に取り組むことで「世界を知ること、海外に進出すること、専門性を身に着けること、信頼性を獲得すること」が重要であるとお話を頂き、合格者のもとより、我々にとっても大変刺激となる熱いエールを頂戴致しました。御来賓の方からのご祝辞として、日本公認会計士協会副会長の武内清信氏より人材育成をご担当されている観点からの現況も含め、合格がゴールではなく今後の研鑽によるさらなる成長を期待されているとの

ご祝辞を頂きました。乾杯は公認会計士白門会会長の熊坂博幸氏のご発声をされ、歓談の時間となりました。

当日は在學生、卒業生を合わせて約40名の合格者が参加されておりましたが、こちらからお声掛けすると卒業生や在學生の隔てなく打ち解けて話をされており、非常に賑やかな歓談の時間となりました。合格者の中には2年生でみごと合格者となられた未成年の方もおり、お酒の代わりにジュースで乾杯となりましたが、今後のビジョンなどもしっかりと持たれていて感心させられるとともに良い刺激を頂きました。合格者数は増加傾向ではありますが、多くの合格者が就職を希望される監査法人においては一時期のような就職難の状況ではないようで、合格の嬉しさに合わせて今後の展望にも安堵感が感じられる和やかな雰囲気での歓談の時間となりました。

歓談のあと、中央大学商学部長の渡辺岳夫氏より記念品の名刺入れが、合格者代表の商学部4年生の稲葉弘一君に贈呈されました。稲葉君の挨拶からは、学校や経理研究所でお世話になった先生方、友人、家族に支えられて合格できたことへの感謝と喜びが伝わってまいりました。

合格者の皆様は合格祝賀会に参加することによって合格の実感を得るとともに、すでにご活躍されている方々と交流することによって、今後進まれる新たな世界を意識されたことと思います。公認会計士には社会から多くの期待を寄せられておりますが、その中で合格者の皆様は今後、様々な分野に進んでいかれることと思います。公認会計士業務を通じて、ますますご活躍され社会に貢献して行かれることを祈念しております。

AI に負けない

公認会計士白門会
幹事
青木 幹雄



人工知能 (AI) という、一昔前のSF 映画のイメージが強いですね。80 年代の映画の中では、アーノルド・シュワルツェネッガー演じるヒト型アンドロイドのターミネーターが人間を追い詰めていく様が描かれており、「人は、AI に支配されるのか？」というテーマを題材にした物語が印象的です。

近年、ビジネスの現場でも AI や Fin Tech というキーワードが周囲を賑わしつつあります。AI というロボットが人間の代わりに作業を行うといった漠然としたイメージを浮かべるかもしれませんが、具体的な用途に基づいて分類すると、①汎用型の AI と、②特化型の AI の 2 つに類型化されます。汎用型 AI は人間を代替するターミネーターのイメージです。一方、特定の処理において、膨大な情報をディープラーニング技術で解析し、学習結果に基づき AI が行動するものを特定型 AI といいます。特化型 AI は、自動運転や囲碁・将棋等の AI や、会計仕訳を学習して自動起票処理するものがイメージし易いところでしょうか。現在、ビジネスの現場で研究が進んでいる AI は、ほとんどは特化型 AI になります。

会計監査の領域においても、2016 年以降、AI × 監査業務の研究が進んでいます。大手監査法人では、既に何らかの形で AI やロボティクスに関する研究を進めていますし、昨年、金沢での研究大会でも監査・会計と AI をテーマとして、協会本部の若手会計士によるパネルディスカッションが繰り広げられています。

昨今における会計監査における AI 化の波は、

取引精査も含む監査手続の代替実施や、監査計画の立案、意見審査の実施を AI に処理させることを視野に入れており、それによって、会計士の監査資源を非定型的な判断業務に注力させるというものです。

それらの試み可以实现できるかどうかは、特化型 AI を動かすデータベースに過去の膨大なデータを収集し、学習・解析させられるか、にかかっているといえます。複雑な経営環境下で、個別の会社の特性を反映した監査上の解をコンピュータが正確に導きだせるのかという問題にぶつかりますし、そこを乗り越えられない限り、AI は従来の IT を利用したデータ分析の範疇を出ないでしょう。チャレンジングな世界ですが、この問題を超えると、我々会計士は AI を従えて、監査業務を効率的に実施できる可能性が広がります。

翻って、将棋の世界では、AI が繰り広げる棋譜は、従来の定石を覆すような一手をしばしば生みだし、過去の戦術が化石となっていくことが既に発生しています。その上で若手棋士が AI をさらに乗り越えていって熾烈な競争を行っています。

この事実が物語っているのは、特化型 AI も深化していくことによって、利用する手段だけではなく、我々と競争する存在になっていくということです。例えば、既存の監査アプローチそのものがひっくり返る未来が AI によって導き出されるかも知れません。その時に我々会計士は、AI に負けてはならず、AI を乗り越えるだけの力を持たなければならないのだと思います。

これまで長年にわたり「絆」の編集を担当されてきた岸田靖氏に代わり、今年度の編集を担当しました郡司です。今回で「絆」は第24号の発行となります。初回が発行された当時、私はまだ大学に入学するかしないかの年齢ですので、これまで白門会の先輩方が積み上げてきた歴史を感じます。

さて、今回は、中央大学商学部長の渡辺岳夫先生に「チャレンジの機会を学生に提供する学部」としてご寄稿頂きました。「ビジネス・チャレンジ講座」では、企業の直面する課題に対して学生が取り組む機会が提供されており、キャリア科目を充実させることに注力されている商学部の現状を知ることができました。

昨年7月に当会会長に就任された熊坂博幸会長からは、会長就任のご挨拶を頂きました。

日本公認会計士協会の副会長である山田治彦氏には、JICPAの現在の会員章ができるまでの経緯等を解説頂きました。NHKドラマ「監査法人」で使用され、著名な俳優の方が着用された会員章は、今も会計士のどなかたかが実際に会員章として使用されているそうです。

今年度の日本公認会計士協会の研究大会は、金沢で行われ、当会から参加された成田智弘氏にその様子についてご寄稿頂きました。有意義な研修会はもちろん、いろいろな方との出会いなど、現地の様子が伝わる写真を交えてご紹介頂きました。来年は、徳島での開催だそうです。今回の記事を読んで、来年はぜひ参加してみたいと思われ方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

毎年恒例のCPAゴルフ大会、白門ゴルフ大会については、柴毅氏にご寄稿頂きました。白門ゴルフ大会では、当会の霧生卓氏が見事個人3位に入賞されたそうです。ゴルフをされている会員の方は、ぜひ参加されてみてはいかがでしょうか。

新春講演会では、当会の伊藤大義氏に「不正会計」をテーマに講演頂きました。講演会後に行われた賀詞交歓会と合わせて、相山嘉洋氏にその様子をご寄稿頂きました。短い時間ながら大変内容の濃い講演であったことが伺われます。来年以降も新春講演会は開催されますので、ぜひふるってご参加をお願いいたします。

今年度もたくさんの中央大学出身の会計士試験合格者が誕生しました。東京ガーデンパレスで行われた合格祝賀会の様子を森山謙一氏にご報告頂くとともに、3名のフレッシュな合格者の方々（阿部さん、織田さん、伴野さん）から合格体験記をご寄稿頂きました。合格体験記からは、周囲の方々への感謝の気持ちとともに、これから会計士人生をスタートするという夢と希望が伝わってきました。

最後に、青木幹雄氏から「AIに負けない」というテーマでご寄稿頂きました。今後ますます切り離せない関係になっていくであろう会計監査とAIについて大変わかりやすく解説頂いています。

幹事一同、出来る限り会員諸先生方にとって有意義な活動となり、さらに公認会計士白門会に入って良かったと思って頂けるよう微力ながら頑張っておりますので、何とぞご指導・ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

公認会計士白門会会報 No.24

平成30年3月31日発行

発行人 公認会計士白門会会長

熊坂博幸

発行所

〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1
中央大学経理研究所気付